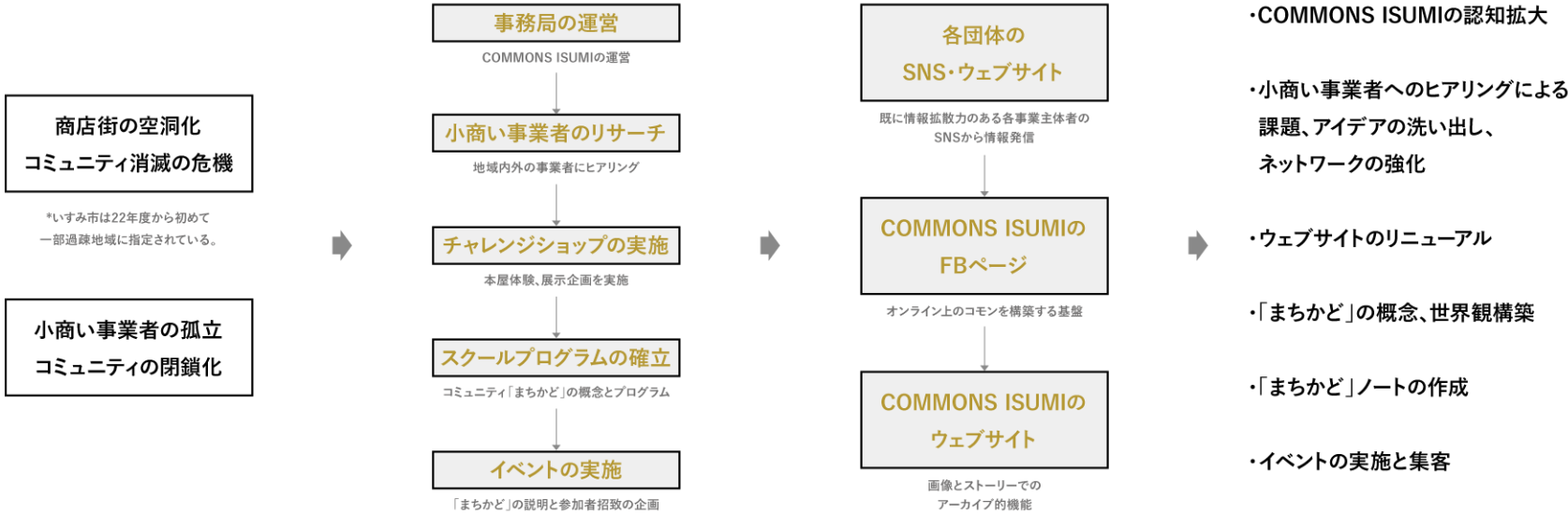


いすみ鉄道国吉駅周辺を舞台に、一時的な空き家活用から地域に根付くプレーヤーを増やす建て付けをし、実践。「国吉藝文祭」を中心に地域を盛り上げる地域内外のプレーヤーのネットワークと表現の場(「まちかど」及び「まちかどギャザリング」)を構築した。

事業部門	部門2 住宅市場を活用した空き家に係る課題の解決を行う事業
事業地域	千葉県いすみ市
背景・課題	対象地域の商店街の市場競争率低下及び、店主・顧客共に高齢化などの原因により空き家店舗率は、7割。地域コミュニティ消滅の危機。小商いが盛んな地域だが、事業者の実力依存する形でサポート体制が乏しく、新規参入ハードルが高い。
目的	事業主体者の建築、不動産、デザイン、地域連携に関する専門的な強みを活かして、空き家活用と小商い事業者のマッチングコーディネート事業を行い、空き家単体ではなくエリアリノベーションへと展開する。
連携する団体・役割	-

地域の課題	実践	情報拡散	成果
-------	----	------	----



COMMONS ISUMIとは

コンセプト

「既に在るもの」「捨てられてしまうもの」に新たな価値を与えることから始め、地域のコモンのあり方を考え、創造する。共通するテーマを持つ鉄ブックス・マチノイト・いすみ古材研究所の3団体が集い、いすみ鉄道国吉駅を中心とした荻谷商店街を舞台に、「国吉藝文祭」を運営。

考え方

過疎地域に認定されたことから解るように、該当地域は平日週末ともにイベント開催時以外は人通りがなく、1空き物件への事業者参入でどうにかなる状況ではない。テーマのあるイベントを定期開催することで、共感する関係人口を巻き込みながら一時的なコモン状態を作り参入ハードルを下げた上で、関わる人を増やすしか道はないと考える。

事業内容

- ・各拠点の企画、運営、ネットワーク構築
- ・国吉藝文祭の運営、チャレンジショップの運営
- ・「まちかど」の運営(まちかどギャザリング含む)
- ・各拠点の事業拡充(ワークショップ、コワーキングなど)

成果

3団体それぞれが明確な目的を持った空き物件の活用実践を日常的、持続的に実施。エリアとしての認知が広がりつつある中で、国吉藝文祭を継続して開催することで、人と建物、場の繋がりが定着しつつあり、次のフェーズ(国吉藝文祭を起点としたコミュニティ「まちかど」のスタート)に移行。



い鉄ブックス



マチノイト



COMMONS ISUMI



国吉藝文祭

小商い事業者のリサーチ

概要

コミュニティづくり(「まちかど」)、スクールプログラム開発(教本として使用する「まちかど」ノート)、ネットワーク構築のために、様々な小商い事業者にヒアリングを実施。ベテランの事業者、新人のプレーヤー共に、出会いの場・対話の場を求めており、当初の事業計画場での想定とズレていないことが分かった。具体的に必要になるアドバイスやサポートの内容については、2/23開催のワークショップの結果と合わせて今後のプログラムに反映させていく。

ヒアリングの内容

・あいこ農園(野菜、加工品販売)

地元野菜の販売を中心しマルシェへ継続して出店している。地域で広く認知されるようになったが、今後の展開を考え、加工場となる場所を探している。加工場を持つにあたり既に拠点を持っている方へのヒアリングを進め計画を練っている。

「まちかど」に求めること

「まちかど」内にいる小商いから様々な展開をした人(実店舗を構えるなど)の紹介。話を聞きながら方向性を一緒に考える仕組みがあるとよいのでは。また、候補となる空き店舗、空き施設の紹介や、そこでの場づくりをフォロー、仲間集め。

・fumi(花屋)

東京から夫婦で移住し、新規で小商いをはじめる。まずは地域のマルシェへの出店を検討。規模、集客、雰囲気などがわからなかったため、先輩移住者に相談。いくつか出店を重ねていく中でよい物件のご縁があり現在実店舗開業準備中。

「まちかど」に求めること

先輩移住者、小商い事業者との出会いの場。地域のマルシェ情報を知る方法がないため(まとまっている情報がない)情報を得る手段。また、出店を検討した時にどのように交渉したら良いかわからないため、主催者への紹介などがあるとよい。

・おにぎり工房かつあん(おにぎりの販売)

地元いすみ米をつかったおにぎりの販売。マルシェへの出店のほか、仲間とともに自ら企画するなど、移住小商い業者にとつての顔役的存在。今後は、実店舗での販売の形を変え、コラボカフェという形で、挑戦したい人を応援していきたいと考えている。

「まちかど」に求めること

コラボカフェに挑戦したいと思っている人や、自分のやってきたこと、ノウハウを引き継いでくれる若手との出会い。双方の思いを丁寧にヒアリングし、マッチングとフォローまでできないか。

・wisefool coffee(コーヒーの移動販売)

先輩移住者に刺激を受け都内から移住。ミニバンを改造しコーヒー販売を始める。出店を重ねていく中で、移動販売を続けるか実店舗を持つか、様々な先輩出店者の方を意見を聞きながら検討。国吉藝文祭出店のほか、駅前の空き地での定期的な出店を経て、昨年末に仲間と共に実店舗をオープン。

「まちかど」に求めること

今後の方向性を考えていく中で、ロールモデルとなる先輩方との出会い、対話の場。また、空き店舗のリノベーション、DIYをする際にアドバイスやサポートをしてくれる人の紹介。

チャレンジショップの実施

概要

新規参加ハードルの高い地域に置いて、出店に関心のある人が気軽に挑戦できる仕組みを構築する。

- ・経験者かつ地域にネットワークのあるプレーヤーが1日アドバイス
- ・事前事後にオンラインでヒアリングがディスカッションを実施
- ・体験後の次のステップを提示(イベント出店)

実施内容

昨年に引き続き、空き店舗(旧大原タクシー)を活用し本屋体験を実施。本はい鉄ブックスの本を活用。体験者6組中5組が、次のステップとして国吉藝文祭に出店した。今後も出店を続けたいと意欲的。また、2/23に展示企画チャレンジショップを実施。

ウェブサイトのリデザイン

概要

COMMONS ISUMIのウェブサイト、国吉藝文祭のメニューを追加し、情報の導線設計を改修。各種SNSも開設し、今後「まちかど」から「国吉藝文祭」への流れを作るための下準備を実施した。情報更新の際には、100ユーザー程度のアクセスは維持しており、当初の目的の数値には達している。



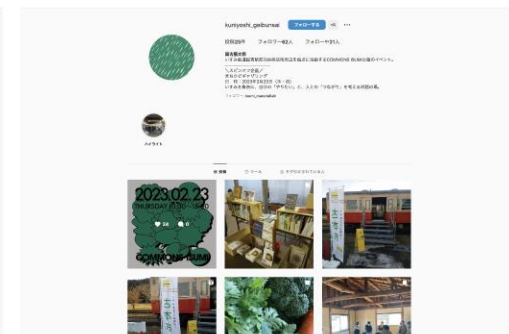
「既にあるもの」だけで商品ディスプレイを作る



チャレンジショップ参加者は、この後「国吉藝文祭」で出店。



サイト



SNS

スクールプログラムの確立

概要

チャレンジショップから国吉藝文祭への出店、そしてその先の目的である荻谷商店街でのプレーヤーを増やし、街を活性化させるという目標まで。その目的を叶えるために、「まちかど」というコミュニティを作ります。今事業期間では、その概念構築(VIのデザイン含む)を実施した。具体的には、国吉藝文祭をきっかけにした関係人口としての地域外のプレーヤーと地元のプレーヤー、そしてベテランプレーヤーと新人プレーヤーの2軸で交流と実践の場を生み出すことを目指す。

まちかどノート

「まちかどノート」は、上記のベテランプレーヤーと新人プレーヤーの交流をベースとした新人プレーヤー用の教本となる。将来的に、「まちかど」は有料のコミュニティとしての運営を想定しており、会員となる新人プレーヤーに「まちかどノート」が配布される仕組みを想定している。

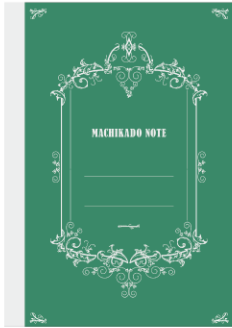
イベントの実施

主旨

「まちかど」の活動の説明と、参加者の募集を兼ねて、ワークショップを実施する。

イベント概要説明文

「あるものを生かす」をテーマに活動する、い鉄ブックス・マチノイト・いすみ古材研究所。この3団体の拠点があるいすみ鉄道国吉駅前荻谷商店街では、様々な取り組みが生まれ始めています。その一つ「国吉藝文祭」では、「あるものを生かす」ことに興味・関心のある出店者と来場者が幾つかの垣根を越えて集っています。COMMONS ISUMIでは、この「国吉藝文祭」をきっかけに生まれつつある緩やかなコミュニティを形にして、いすみに新しい「地元」を作りたいと考えています。既にいすみで活躍しているプレーヤーと県外のプレーヤーの接点を作りながら、様々なポテンシャルを持つ人々がその交わりの輪を広げ、場や経験の共有を通じて仲間になり、地域における集団的アイデンティティを形作っていきます。仕事で培ったスキルやノウハウを活かして地方で出店したい人、趣味を活かしてイベントに参加したい人、既にいすみで活躍しているプレーヤーと交流したい人まで、様々な動機を持った人々が関われる場作りについて、共に考えてみましょう。



まちかどノートの表紙



まちかどノートの中身の検討



イベントチラシ(表)



イベントチラシ(裏)